



UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書課内

電話 0774-22-3141 (内線2057) FAX 20-8776

E-mail BCH04550@nifty.com ホームページ <http://homepage3.nifty.com/uifa/>

第 34 号

平成14年(2002年)12月



会場みんなが盛り上がった

「国際交流音楽フェスタ」

去る平成14年10月5日(土)、宇治市国際親善協会設立15周年記念事業として「国際交流音楽フェスタ」が宇治市文化センターにて開催されました。約400人のご来場をいただき、フィナーレでは観客も一緒にステージ上でダンスを踊り、大変盛り上がった素晴らしいイベントになりました。



上林春松宇治市国際親善協会会長の挨拶の後、最初に登場したのは「宇治市少年少女合唱団」でした。日本代表として、浴衣衣装で日本の歌を歌ってくださいました。

次に披露していただいたのは、尹貴順(ユンキスン)さんと金順子さん親子による「朝鮮民族舞踊と韓国民謡」でした。尹さんの迫力があり、



した。

休憩の後、宇治市立南宇治中学校・中国文化研究部の皆さんによる「中国武術長拳」が登場しました。威勢のいい掛け声とともに中国の武術を披露していただき、その素晴らしい動きに観客からは拍手がおこりました。

次に、同じ中国文化として中国楽器の「胡弓」を紹介してくださいましたのは、玉村昌雄さん、伊藤幸一さん、王宁さんでした。人間の声に最も近いといわれる素晴らしい胡弓の音色が会場いっばいに広がりました。

次は、「Ceol Gaith ~ 風の歌 ~」のお二人によるアイルランド民謡でした。Ceol Gaith・アイルランドの古い言語で「風の歌」という意味の通り、

最後は、「Viraキッズダンスチーム」によるストリートダンスでした。四歳から十二歳の子供たちがステージ上でリズムカルなダンスを披露しました。会場全体が大変盛り上がり、フィナーレにふさわしい大変素晴らしいステージになりました。

音楽は国境を越える、という言葉の通り、出演者を含めて会場のすべての皆さんが音楽をおして一つになれたような気がしました。

これを一つの節目として、宇治市国際親善協会では一人でも多くの方に国際理解を深めていただき、地域の国際化のために今後いろいろな事業に取り組んでいきたいと考えています。

出演してくださった皆さん
準備や当日の運営に携わって
いただきました関係者の皆さん、
本当にありがとうございました。



G・W・Nの女性達十四名で、八月から九月の半ばに

かけて、アラスカの小さな町
ホームーと、宇治市の友好都
市であるカムループスへ、福
祉、教育、ビジネス、ボラン
タリズム、女性問題などに関
わるスタディツアーに出かけ
た。これまでに交流をしてい
た女性達とのネットワークで
実現した旅だった。

人口約五千人のホームー市は、市長以下市議会議員もすべて無給のボランティアで、まちづくりの原点を見たように思う。大自然以外何もなかったこの土地に、女も男も区別なく汗を流して、自分達の家をいちから立てることで始



まいった彼らの人生は、豊かな自然の影響で、日常生活には芸術的なもの、満ち溢れ、すべ

ての女性達は、たくましく、心優しかった。

一方、カムループスは、現在人口が八、九万人、まちの周辺では住宅地の開発が進んでいた。カナダには、ボランティアリズムがしっかりと根を下ろしている。スタディ・ツアーで訪問をした病院やシニア・センターなど、どこへ行っても人々のボランティア活動は活発だった。ロイヤル・インランド病院では、キャンディ・ストライパーと呼ばれる十五歳から十八歳までの高校生達が、病院のボランティア活動に従事しているのだが、これを支えるために、教育プログラムがきちんと組まれていて、大人のボランティア・グループが支援していた。彼らはこのプログラムを通して、看護師や医者、病理検査士、レントゲン技師などへの関心を深めて、彼ら自身の未来の姿を探るのである。計画的に繰り上げられた教育的プログラムを通してのボランティア活動は、人手不足の病院に

とつても、
将来を模
索する若
者にとつ
ても、意
義深いも
のだと感
心させら
れた。



高瀬千津子さん

八月末から十二日間、宇治の女性に混ざっていただいて十人でのツアーに参加させていだいた。

アラスカでは広大で素晴らしい絶景の地・ホームーでの遅し、優しい女性達との巡り合いに加え、思いがけず「ノーザンライト(オーロラ)」を、なんと一夜に二度も見ることでもでき、往路の飛行機でスーツケースを誤送された私にはこの上無いプレゼントまでいただけたのであった。

また、カムループスでは昨年宇治での「女性の集い」で基調講演予定者であってテロのため来日できなかったメーガンさんにも会えたし、ワークシヨップでお話を伺ったハネダさんとも再会できた。ホ

ームステイ先は二エラ＆ハンクのステキなご夫婦のお宅で、私は今村周子さんと二人、地下の広いお部屋をひとつずついただいてユツタリ過ごさせていただいた。

「朝食↓車での移動↓様々な見学先↓帰宅」まで、毎日毎日お世話していただいた。このご夫婦は共にリタイア後で、とても穏やかな性格や暮らしぶりであった。丁度NHK連続テレビ小説「さくら」の世界のようで、ハンクがニエラに「マアム…」とかける声がとても優しく感じられた。英語の不自由な私達にジツクリと語りかけてくれたり、こちらも短い英文に身振り手振りで十分に交流ができ、最後にはニエラがとてもお茶目なところもあるという事も分かり嬉しかった。パパ、ママ、本当に有難う。

双方の国で小・中・高校、大学、病院、特養、シニアセンター、ウィメンズシェルター、市役所、教会、町のお店などにも行き、施設だけでなく、そこで働いたり活動する人々との出会いも多かった。勿論、女性だけでなく、ステキな男性にも…。

カムループス市との掛け橋に！

平成十四年度カリブ大学留学生

岩 本 薫 子 さん

宇治市は、毎年四月に友好都市カムループス市にあるカリブ大学に留学生を派遣しています。今回は平成十四年度留学生の岩本薫子さんに、カムループスでの生活を報告していただきました。

五ヶ月間という決して長くない期間でしたが、カムループス市・カリブ大学で様々な経験のチャンスを与えられました。現地滞在中に開催された数々の行事の中で、私がカムループス市と宇治市の間での、微力ながらも、文化交流の掛け橋の一端を担っていたならば、光栄に思います。

さて、旅立ちました四月末より、約五ヶ月間、カナダ・バンクーバー北東、車で約四時間に位置するカムループス市での暮らしについてですが、決して「大都市」とは言えない街でしたが、それだからこそその良さを感じる点は多くありました。例えば『人の温かさ』であったり、『地域の文化を大切にしている心』であったり、そういった何処か日本で

忘れられかけている『人間本来の温もり』に多く触れることができた日々でした。

ホストファミリーを始めとするカムループスの人々は、友好都市としてのわが街（宇治市）に大変友好的で、私が宇治市からの学生だということだけで、また更に親密に、興味深く宇治の話に耳を傾け、その友好交流の浸透性を、ここ宇治に居るよりも深く感じました。海外の文化、ことさらに歴史の街（宇治市）との友好関係をとても喜ばしく感じていることを、彼らから感じるのは容易なことでした。

訪問中にしばしば何らかの形の交流会があり、その度に『宇治市からの代表』という位置付けで招待していただき、多くの現地の方々と知り合うチャンスがありました。その



中で最も嬉しかったのが、カムループス市長との対面、そして会談でした。それは私にとって大変貴重な体験となったことは言うまでもありません。

互いに、宇治市の文化、そしてカムループス市の文化を取り入れること、その相互作用は確実に深い影響力を与えています。日本人が忘却しがちな日本特有の「美」を逆に認識させられたことも多く、いかに日本文化が浸透しているかを感じました。

毎年、多くの宇治市の方がカムループス市を訪問し、またカムループス市の方が宇治市を訪問する中で、更なる文化交流が生まれることは大変素晴らしいことで、今度は私

が『宇治市に居る私』として、そのような方々のお世話や、ご案内をして差し上げたら、どんなに良いだろうと思えます。一度の人生の中で、宇治市に住み、そしてカムループス市を知り、実際にそこで生活でき、日本では経験できない沢山の貴重な日々を送れたことは、私の今後の人生において、かけがえのない宝物となり、必ず何らかの形で、人生を切り開いて行くヒントになるでしょう。もちろん、楽しいことばかりではありません。辛いことも沢山あります。しかし、そのような経験は人生の糧となり、また大きく踏み出せる一步を助けてくれるでしょう。



カムループス市留学のチャンスを与えられ、大変充実した日々を送れたことを、とても嬉しく思います。同様に今後もより多くの方々がカムループス市を訪問し、また知識の共有をすることで、更なる文化交流が図れることを祈っています。

会費納入のお願い

平成十四年度の会費の納入をお願いします。当協会の運営は皆様の会費によって成り立っています。会の運営や活動を活発にするためにも、どうぞよろしくお願いします。

会費

個人会員 二千元
団体会員 五千元
法人会員 一万元

振込先

京都銀行：
宇治支店・普通預金Ⅱ
678459

*いづれも受取人は『宇治市国際親善協会』です。

ヌワラエリヤ市との交流再会を願って……

◎宇治市とヌワラエリヤ市との交流の経過

宇治市とヌワラエリヤ市とは、昭和六十一年（一九八六）年四月二日に友好都市盟約を締結しました。

ヌワラエリヤ市は、セイロン紅茶の名で有名な同国の中でも有数の産地であるところから、日本高級茶の産地である宇治市に対して姉妹都市締結の呼びかけがあったもので、宇治市からは昭和六〇年に調査団を、翌六十一年四月には池本市長を団長とする調印訪問団を、同市に派遣しています。

以来、宇治市からは、昭和六十二年には、同市に日本庭園を作る作庭訪問団や公式訪問団が、また、平成二年、五年にも公式訪問団が同市を訪問し、交流を深めてきました。

一方、同市からも、平成三年に全国植樹祭が宇治市で開催された際に訪問団が来宇。五年及び七年には、日本で開催された国際会議に出席の途上に同市市長らが、友好盟約締結十周年に当たる八年には、植物公園開園式に同市市

長らによる訪問団が来宇しています。同年の宇治川マラソンには、三名の同市市民も参加しました。

しかし、同国内での反政府武装組織の動きが活発になり、宇治市から公式訪問団を派遣できる環境でなくなったため、公式訪問団の派遣は平成五年以来、また、訪問団の来訪も八年以来、実現していません。

◎最近の情勢について

今年二月にノルウェー政府の仲介で、同国政府と反政府武装組織とが無期限停戦の合意文書に調印。九月には両者による第一回直接和平交渉が、十月には第二回の和平交渉が、いずれもタイで開催されており、和平実現に向けたより実務的な話し合いの進むことが期待されています。

こうした動きを受けて、公式停戦合意の発効以降、現在まで双方において停戦が守られており、外務省からの渡航情報でも、それ以降は衝突事件等は発生していないとのこと。また、危険度は現在、コロナ、キャンディー、ヌ

ワラエリヤ市一帯の同国中部・西部は、最も低いランクの『十分注意してください』となっています。

中国・咸陽市、カナダ・カルムプス市との友好交流が、幅広い市民レベルで積極的に進められている一方で、宇治市が最初に友好盟約を締結した都市との交流が、こうした状況にあることは、当協会にとっても大変に残念なことである。

「咸陽市武術訪問団が来訪！」

平成15年1月22日(水)から29日(水)まで、咸陽市から武術訪問団8名が宇治市に来訪します。訪問団一行は、剛柔流空手道心華館の心華寺研修道場に宿泊し、1月26日(日)に西宇治体育館で午前10時から開催される宇治市スポーツ少年団主催の宇治川ライオンズ杯空手道大会で中国武術演武を披露するのをはじめ、宇治市役所表敬訪問、宇治市体育協会関係者の懇談会出席、宇治市内見学などをおして交流を深める予定です。

「お正月文化交流会」

日時：平成15年1月26日(日) 午後1時～3時
場所：宇治公民館3階大会議室
費用：300円（茶菓子の実費）
内容：宇治周辺に住む在日外国人の人々と宇治市民との交流
日本のお正月、伝統文化や遊びの紹介と体験、
外国のお正月、伝統文化や遊びなどの紹介と体験
主催：宇治国際交流クラブ
連絡先：谷口さん（☎ 33-1901）



最近の新聞では、日本も和平交渉や復興支援に協力していく予定との報道も行われており、「幸福の輝ける島」スリランカに恒久平和が確立し、宇治市民とヌワラエリヤ市民との交流を再開できる日が一日も早く来ることを願っています。

観感雑

▼先日、京都府国際センター主催の「地域国際活動推進者研修」に出席した。自治体国際協力アドバイザーの江橋崇先生の講演の後、三人の講師の事例報告を通して、地域国際活動の可能性について様々な意見や質問を交わした。▼中でも、地域に生活している外国人との相互理解の難しさは考えなければならぬ問題である。生活習慣の違い、情報伝達不足などが原因でいろいろな問題や誤解が生じている。国際化といえば外への国際化が一般的だが、視点を変えると様々な問題を抱えている。江橋先生は「内なる国際化とは、異文化の人同士を認め合える社会であり、その方法の一つとして、例えば外国人が多く生活する地域では、それを地域特性としてアピールしていく」と述べられた。▼この研修の中で、これからの多文化理解を考える上で、地域が抱える様々な要素をどうやって地域の資源にしてゆかかということについて考えさせられた。